

岩城 晶巳 議員（代表質問）

1 ほたるいか海上観光と富山湾岸クルージングについて

- (1) 中止した理由について、今までの説明で市民が納得していると思っているか。
- (2) プライバシーの問題と口を閉ざしているが、このような大問題で個人が優先されるべきではないと考えるが。
- (3) 昨年より漁業協同組合と運航会社がうまくいってないとは聞いていたが、中止までになるとは。仲を取り持つのが市ではないのか。市のシンボルである、ほたるいか観光事業、歴代の諸先輩が血の滲む思いで繋いできた伝統行事、このつまづきは重大な市民への背信行為である。この責任はどうするのか。
- (4) 今年は、民間団体の協力で4月12日～5月2日まで観光船の運航ができ、面目は少しは保たれた。関係者の努力には敬服する。しかし「氷見の委託業者の船はもう使えないので、自主運航するしかないため、船を購入したい」とのことではなかったのか。
- (5) 富山湾岸クルージングについての再開は、5月31日の説明では難しいとの感触だが、県の補助金も入っての購入であり、需要期の夏休みからでも再開しなければこれも大問題だ。
- (6) 運航会社は、「市側とは証書について話し合いの場を持ち、納得してもらったはずなのに、言い分が理解できない」とのことだが、このことについての市の見解は。

2 学校教育について

- (1) 理数教育を推進して、ものづくりのまち滑川にふさわしい人材育成をとあるが、小学校は英語教育で大変であり、中学校は受験が控えている。それにこの理数教育、通常の授業はこなせるのか。子どもたちの負担になるのではないか。
- (2) 土曜授業、ケーブルテレビ寺子屋授業、それに理数教育と実験的な施策で滑川市は教育に手を付けすぎではないのか。犠牲になるのは子ども

である。

- (3) 初志貫徹も大事だが、臨機応変という言葉がある。

3 中滑川駅前・滑川駅前市営住宅跡地の活用について

- (1) 中滑川駅前跡地については、広く住民の皆様から意見を聞くため「協議会の設立を考えている」とのことだったがどうなっているのか。
- (2) たたき台ぐらい提示しなければ、全部おまかせでは議論が進まないし、無責任ではないか。
- (3) 滑川駅前市営住宅跡地は、あまり議論にならないが市の考え方は。
- (4) 会派としては、早く売却すればと考えるが。

4 市民ホールの早期建設について

- (1) 音楽協会からの請願は、議員全員で採択された。この重みをどのように理解しているか。
- (2) 会派より提言された内容についてどのような見解か。
- (3) 都市マスタープラン作成時の市民アンケートを受け、満足度が低い文化に触れる機会や場を充実していくことが必要とあるが、市の政策における優先順位をどのように考えているか。

高木 悦子 議員（代表質問）

1 人口減少時代を正しく理解した政策になっているか

- (1) 先進国で人口を維持するための合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に産む子供の数）は2.07と言われている。日本の合計特殊出生率が2.07を下回ったのが昭和49年だが、日本の人口が減少に転じた平成20年まで33年間人口が増え続けたのはなぜか。
- (2) 仮に、今年から滑川市の合計特殊出生率が2.07になり、社会増減がプラスマイナスゼロになったら、滑川市の人口は33,000人を維持できるのか。
- (3) 近年の滑川市の合計特殊出生率はいくつか。
- (4) 近年の滑川市の人口の社会増減はどうなっているか。
- (5) 仮に、今日から日本全体の合計特殊出生率が2.07になったとしても、出産できる年代の女性の人口は20年以上減少し続ける。一方で、死なない人は誰もいない。これから先20年間、死亡数は年々増加の一途をたどる。どのように優れた政策も、人口減少を緩やかにすることはできても、人口減少を止めることはできないという認識を持っているか。
- (6) 仮に、滑川市だけが人口を維持したとしても、これから20年以上日本全体の人口は減少をし、働いて納税をする世代の人口が減り続けることは確定している。国からの交付税などに頼った財政運営ができなくなった時のことを、考えているか。
- (7) 少子化・人口減少の鍵は女性が握っている。全国的に「ものづくり県」と言われるところが、女性の人口流出が激しい。滑川市も20代30代の女性が男性よりも少ない。女性に魅力ある正規雇用の勤務先が必要とされているが、滑川市の企業誘致の考え方はどうか。

2 滑川市の公共施設の将来構想について

- (1) 公共施設の将来マネジメントコストは、人口減少社会の自治体にとっ

て大きな課題となっている。昨年「滑川市公共施設等総合管理計画」が策定されたが、道路・橋梁・上下水道などのインフラと公共建築物の今後40年間の更新費用総額は1412億6千万、年平均35億3千万円と見積もっている。それぞれの更新周期を1.5倍程度に延ばしたら、半額程度に抑制できると「機械的な試算」をしているが、機械的なものであり半額程度という数字に確実性はないと考えてよいか。

- (2) 「滑川市公共施設等総合管理計画」には、屋内運動場や滑川蒲鉾跡地、行田公園の拡充なども事前に含まれた計画であったか。
- (3) 全国の自治体の統計によれば、人口1人当たりの公共施設の面積は3.42㎡。先行的に公共施設のマネジメントに取り組んでいる自治体では1人当たり2㎡程度でも、将来的な財政不足が懸念されている。滑川市の公共施設の1人当たり面積は試算で5.26㎡と全国平均を大きく上回り、類似人口規模の自治体の平均3.95㎡も超えている。特にこの5年間で大きく増加を続けており、公共施設のマネジメントの動きに逆行していると思うが、将来財政の視点でこの現状をどう考えるのか。
- (4) 新しいものをつくるなら、古いものを減らしていく。新しいものをつくるなら、複数の公共施設の機能を一つで担わせることが、人口減少社会では不可欠な政策ではないか。
- (5) 市有地の面積もこの5年間で増加の一途をたどっている。2年前に農協会館跡地、藤井歯科の跡地を取得したが、未だに利用の方向性が定まっていない。利用計画がないのに土地取得が先行したからだ。行政では「PDCAサイクル」という言葉が多用されるが、滑川市の行政には「P=計画」が欠如しているのではないか。
- (6) 屋内運動場建設も児童館の駐車場拡幅に伴う行田公園拡充も、「事前の計画」は一切なかった。滑川蒲鉾跡地も、そもそも3カ月前の廃業まで、滑川市として取得する予定は一切なく、降ってわいた「購入話」で、議会に示された用途は「購入ありきの後付け理由」以外の何物でもない。この5年間の建物・土地の取得は市民に広く知らしめられた計画にのっとったものであったか。
- (7) 財政課は、計画になかった土地・建物の取得に対して、取得費の予算、更に将来の維持負担を、何を犠牲にして賄うつもりなのか。
- (8) 「捕らぬ狸の皮算用」をしていた企業経営者は破綻を招く。財政で「甘い想定」をしていた自治体の住民は、将来の世代がそのツケを払わなけ

ればならない。自治体マネジメントにキリギリスは要らない。アリの堅実性が必要だと考えるがどうか。

- (9) 滑川蒲鉾の土地・建物・償却資産の固定資産税評価額はいくらか。
- (10) 民間で築 30 年近い建物が存在する土地の売買価格は、更地費用から解体費用を差し引いた金額になるのが通例だ。解体せず利用するとしても、建物価格の評価はゼロと見るのが民間の相場だし、そもそも工場跡地は買い手はつかない。すると建物付きの土地は、通常売れない。仮に 500 坪の建物を解体するとすると少なくとも平均的な相場では 1,500～2,000 万円は要するとされる。4,800 万円という金額は適正とは思えない。
- (11) 深層水塩の袋詰め、何㎡のスペースが年間何日必要なのか。給食用野菜の保管を年間何日間行い、現在魚津市の業者へいくら支払っているのか。
- (12) 海洋深層水を通年研究のために、今後、専属の研究員を置くのか。そのために幾らの投資をするつもりなのか。
- (13) 滑川蒲鉾跡地を取得する代わりに、どの公共施設を廃止する予定なのか。
- (14) 滑川蒲鉾跡地は、なければ自治体行政に支障をきたすのか。
- (15) 滑川蒲鉾跡地がなければ、市民生活が不便になるのか。

3 タラソピアの経営状況について

- (1) タラソピアは第三セクターで運営する「観光施設」で間違いないか。
- (2) 平成 21 年 6 月に総務省から「第三セクター等の抜本的改革の推進等」について指針が示され、「経営状態が著しく悪化している場合は、将来的に自治体の財政に深刻な影響を及ぼす」として「抜本的な改革推進」が求められた。かつては 5 万人を超えたタラソピアの利用者は平成 27 年度 26,800 人。滑川市からの管理委託費という名の赤字補てん額は 52,154 千円と、「経営状態が著しく悪化した状態」ではないのか。
- (3) 平成 28 年 3 月定例会で、副市長はこの現状を踏まえ「燃料費、人件費等も節約していく。」「公共施設等総合管理計画も踏まえて今後進める。」

と答弁していたが、平成 28 年度の利用者はどれだけ増えて（福祉目的の予算が別途付けられた利用者を除く）、管理委託費はどれだけ削減できたのか。

- (4) 「公共施設等総合管理計画」において、タラソピアはどのように位置づけられたのか。
- (5) 第三セクターへの損失補てんは「財政援助制限法」違反であるという訴訟が複数提起されている。多くの判決は、自治体の判断は財政援助制限法に抵触する恐れがあるが、議会が予算を承認していることを理由に、損害賠償を棄却している判例が多い。タラソピアに関しては、議会から「廃止に向けた提言」が出され、議会としてはこれ以上の損失補てんは止めるべきと言う方向性を示している。最高裁判官の中には第三セクターへの損失補てんについて「客観的に公益上必要と認められなければならない」と意見している者もあり、「観光施設」であるタラソピアの損失補てんは、約 200 名の滑川市民の利用という限られた利用を支えるためのものであり「客観的な公益性」は認められないと考えるがどうか。
- (6) 深層水塩の袋詰め、給食用野菜の保管、海洋深層水の研究拠点、当初計画の半分しかホタルイカを冷凍できなかったプロトンの拠点、あるいはダイバーのシャワー・着替え施設のために滑川蒲鉾を取得して改修にお金をかけるよりも、タラソピアの利用目的を変更して活用する方が、ふさわしいのではないか。

古沢 利之 議員（代表質問）

1 国民健康保険と医療について

(1) 国保の県域化について

準備状況が見えてこないがこれでいいのか。全国ではさまざまな試算を示しているところもある。

ア 具体的にどうなるのか市民は知っているのか。

イ 保険税はどう決まるか。県が市町村別に標準税率を示すとされているが。

ウ 県への「納付金」はどのようなもので、どう決まるか。

エ 「保険者努力支援制度」の問題点は。

オ 実施までに市が準備すべきことは何か。

(2) 滑川市は医療費が高くなっているとされる、何が要因か。分析、対策をどうする。

(3) 子育て世帯への保険税軽減を検討されたい。

子どもを「均等割」の基準に入れるのは不合理ではないか。

2 奨学金返還への助成について

(1) 県内自治体で地元へのUターンなどを条件に、奨学金返還に助成するところが増えている。検討すべきだ。

(2) 立山町などでは自治体の奨学金のみならず、日本学生支援機構などの奨学金も対象にしている。

水野 達夫 議員（一般質問）

1 滑川漁港周辺の活性化について

- (1) 先の3月定例会において提言した「滑川漁港周辺の一体的な再生整備計画」策定に向けた現在の取り組み状況はどうか。また、ビジョンは何か。
- (2) 今定例会に補正予算として計上された滑川蒲鉾の土地等購入費は適正な価格なのか。土地、建物、償却資産の固定資産評価額はいくらか。
- (3) 滑川蒲鉾の今後の活用計画として天日塩の作業があげられている。生産コストに見合った販売ルートの開拓等の状況はどうか。
- (4) 新たな地域ブランドとして、「高志の紅ガニ」を大々的にPRし、「春のホタルイカ、秋の紅ズワイガニ」を滑川2大ブランドとして発信すべきではないか。
- (5) 滑川漁港周辺で地産地消のさらなる推進を図るならば、例えば、中期的に青果市場を復活させ、深層水を利用したり、食育と絡めるなど、魚市場との一体的な拠点市場を整備することを「再生整備計画」に盛り込むことはできないか。

2 連携中枢都市圏構想について

- (1) 富山市からの要請は、いつどのようにあったのか。
- (2) 新聞報道等によれば、協議の場が持たれたと報じられているが、これまでに何回、どのような協議があったのか。
- (3) 富山市においては、6月補正として8,974千円の予算が計上されているが、滑川市として連携に向けた予算計上は必要ないのか。
- (4) 将来的には、どういう市民サービスの広域連携を考えているのか。

3 滑川市の働き方改革について

- (1) 5月17日、富山県庁において「働き方改革推進チーム 第1回会議」

が開催され、働き方改革の推進に向けた議論がスタートした。滑川市における取り組み状況はどうか。

- (2) 職員の超過勤務や代休消化に関しての実態把握はされているのか。
- (3) 例えば、フレックスタイムの導入や育児・介護のための時差出勤等、柔軟な働き方改革を検討してはどうか。
- (4) 全国類似団体で比較した人口1万人当たりの職員数は全国トップクラスの少なさであり、せめて平均に到達する方向で職員採用を計画的に進めてほしいと思うがどうか。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 子育てについて

- (1) 子育て世代包括支援センターの整備の現在の進捗状況について
- (2) 18歳までの切れ目のない支援について
- (3) 発達障害児等への支援について
- (4) 支援体制について

2 子どもの貧困対策について

- (1) 教育支援として放課後の学習支援のさらなる充実を図ってはどうか。
- (2) 生活支援について、子ども食堂への市のかかわりは。
- (3) 保護者への支援として、ひとり親家庭の親に対する各種支援事業の実績は。
- (4) 国の交付金を活用してはどうか。
- (5) 子どもの貧困に関して、教育と福祉の連携を図るため、連絡調整機関などつくってはどうか。

3 安全・安心について

- ・ 全中学生を対象にピロリ菌検査を実施してはどうか。

4 観光について

- ・ 観光案内板について
 - ア 総合戦略にある「更新」の現在までの進捗について
 - イ 総合戦略にある「外国語表記」の内容について

角川 真人 議員（一般質問）

1 介護について

- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業について
 - ア 現在の利用状況はどうか。
 - イ 利用者・介護事業者からの反応はどうか。

2 交通安全について

- (1) 寺家踏切の手前は車の交通量が多いが、踏切を確認せず一時停止を守らない車もよく見受ける。児童の通行も多いため対策を。
- (2) 県道1号線は富山湾岸サイクリングコースに含まれているが、道幅が狭い上に交通量もあり危険である。コースの変更を県に働きかけてほしいがどうか。

3 コミュニティバスについて

- (1) 6月からコースの改正も行われているが、せっかくあいの風とやま鉄道が朝に1便増やしているのにかみ合っておらず、残念に思っている。運行時間の検討を。
- (2) 小型バス導入の検討はどのようになっているか。

竹原 正人 議員（一般質問）

1 観光振興について

- (1) 本市唯一の観光資源である、ほたるいか海上観光の観光船の運航を、例年より短い期間であったが実施することができた。一度中止を宣言し、再度運航するという経緯もあり、観光船の運航を期待していた、市民、観光客、関係業者に対する信頼回復について、市として今後どのように取り組んでいくのか。
- (2) 観光船「キラリン」を使用しての富山湾岸クルージングの再開についての見通しは。
- (3) 観光船「キラリン」の運航が再開しない限り、観光客の誘致について営業活動も積極的に行うことができないと考える。現在の観光客の誘致についての取り組みを、どう考えているのか。
- (4) 滑川でのコンベンション開催助成事業について、問い合わせを含めた実績と要件について緩和するなど、内容等も含め改善を検討しているのか。

2 子ども達の学力向上について

- (1) 土曜授業と土曜学習の違いについて保護者への周知は行ったのか。
- (2) 土曜授業の取り組みについて検証を踏まえ、今後どのように展開していくのか。
- (3) 今年度の夏休みの補充学習についての取り組みは。

3 子ども達の安全・安心について

- (1) 子ども達の通学路、学校敷地の危険箇所の把握と対応は。
- (2) 子ども達の送迎や学校行事等による駐車場不足の認識について、どう考えているのか。

4 農業振興について

- ・ 農業の担い手不足が懸念される中、市として農業振興策をどのように考えているのか。

浦田 竹昭 議員（一般質問）

1 ほたるいか海上観光中止について

- (1) ほたるいか海上観光中止の経緯と具体的理由について
- (2) 市主体でほたるいか海上観光が再開できなかった理由、並びに中止発表以後の4者の話し合い、調整について
- (3) キラリン購入、運航会社設立の経緯、並びに現在の契約の状況について
- (4) 民間主体ほたるいか海上観光実施の経緯と収支バランス、並びに漁協への協力金について
- (5) ほたるいか海上観光協力実施の年度当初予算上の位置づけについて
- (6) 「キラリン」の現状、点検・整備の状況、並びに今後の利活用について
- (7) 「キラリン」を使っの富山湾岸クルージング、小中学生海上体験学習等の予算執行について

2 有害鳥獣被害防止対策について

- (1) 有害鳥獣（イノシシ、サル、クマ等）の捕獲状況について
- (2) 有害鳥獣の捕獲用の檻の保有状況並びに設置状況について
- (3) 鳥獣被害対策実施隊の活動状況について
- (4) 鳥獣被害対策実施隊の組織体制について
- (5) 職員を含めた狩猟資格者育成の状況について
- (6) 有害鳥獣捕獲後の解体処理場の整備について

3 火災発生時の確認、周知について

- (1) 火災発生の現状と各地域での火災発生時の周知、確認方法、並びに消防団員の招集体制について
- (2) 火災発生時に各地域でサイレンを鳴らすことについて

4 道路等インフラ整備について

- (1) 東福寺野自然公園とみのわ温泉との連携した、周遊のできる道路の整備について
- (2) 本江（スーパー農道）から小森地内への道路拡幅改良並びに、農道から市道そして県道への認定について

谷川 伸治 議員（一般質問）

1 姉妹都市シャンバーグ市との国際交流事業について

- (1) 中学生20名の募集に対し、応募者は何名だったのか。また、どのように選考したのか。
- (2) 中学生20名の内訳について、滑川中学校は何名（学年別に）か、早月中学校は何名か。
- (3) 今月15日から18日の期間、ドゥーリー小学校親の会が本市を訪問されるが、今回派遣予定の中学生との交流は計画されているのか。

2 急速冷凍によるホタルイカのブランド化について

- (1) ホタルイカ漁のシーズン中に、生とボイルしたホタルイカを約1,600kg凍結したとある。3月定例会では約3トンを予定していると答弁があったが、なぜ目標を達成できなかったのか。
- (2) ホタルイカ約1,600kgの凍結にかかった経費はいくらだったのか（ホタルイカの仕入れ代、運搬費、人件費、電気代等）。
- (3) 冷凍したホタルイカを今後どのように販売していくのか。急速冷凍ホタルイカブランド確立協議会との協議は進んでいるのか。
- (4) 急速冷凍機「プロトン凍結機」の有効活用として、ホタルイカを冷凍する約2カ月間以外の期間のプロトン凍結機の運用要綱について検討しているのか。

3 空き家のアンケート調査と空き家の有効活用について

- (1) 滑川市空き家所有者（管理者）アンケート調査結果について
 - ア 空き家数748件に対し、回収数は。
 - イ 空き家となった時期と空き家となった経緯について

- ウ 空き家の実際の管理者について
- エ 今後の空き家の管理・活用についての考え方は。
- オ 空き家を他に売却したい。他に賃貸したい。と選んだ方が、すでに不動産業者へ相談しているか。
- カ 空き家の今後の管理・活用について、困っていることは。
- キ 空き家の現在の状況について
- ク 空き家に関する市への要望について
- ケ 空き家・空き地情報バンクについて知っているか。登録についてどのような考えか。

- (2) 上記のオ. 空き家を他に売却したい。他に賃貸したいが不動産業者へ相談していないとの回答が65% (66件) ある。またカ. 空き家の今後の管理・活用について、売却したいが適当な相手が見つからないとの回答が31%ある。キ. 空き家の現況として、そのまま使用可から少し修繕が必要までで約60%ある。今回の結果に対しどのように対応していくのか。
- (3) 空き家・空き地情報バンクを知らないが56%あり、今後どのように対応していくのか。

原 明 議員（一般質問）

1 農業の振興について

- (1) 富山米新品種「富富富」滑川市での試験栽培の状況と来年の栽培について
- (2) 米の生産調整が2018年より廃止されるが、農家への周知と対応について

2 人口減少対策と子育て支援政策について

- (1) 2016年の滑川市の出生数と合計特殊出生率は。
- (2) 安倍政権が目指す合計特殊出生率1.8への対策は。
- (3) 子育て支援政策の効果として年少人口は増加しているか。

3 行田公園の管理計画について

- ・ 行田公園全体の管理について（中川も含む）

4 富山湾岸クルージングの運航について

- ・ 富山湾岸クルージング、キラリン号は何が解決できれば運航再開できるのか。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 過去の質問について再度問う

- (1) 平成28年12月定例会で臨時雇用者の有給休暇消化率を質問した。当時の課長からは、今後については管理をしていきたいと思うとの答弁であったが再度問う。
- (2) 平成28年12月定例会で臨時雇用者の雇用契約書の質問をした。嘱託職員は雇用契約書を締結しているか。
- (3) 3月定例会では観光の黒字化にむけて競争戦略とマーケティングについて提案し、3月および4月中には各課から提案を受けてほしいとの質問をした。市長からは「基礎から、一からやり直すべき提案であったことを重く受けとめて、しっかり頑張ってもらいたい」との答弁であったが実際提案はあったか。

2 平成30年度重点事業に関する要望一覧について

- (1) 永代地上権の抹消にかかる法整備についての進捗はどうか。
- (2) 魚に関する学習環境の整備については、具体的にどのような取り組みか。

3 子ども第一主義の徹底について

- (1) 第2子保育料等無料2年目に入り初年度の出生数、若年夫婦の転入数など定量的な分析。またアンケート結果等、市民健康センターでの声のような定性的な分析はどうか。
- (2) 現在、滑川市の幼稚園および保育園の待機児童はいるか。また今後の見通しは。
- (3) 女性が育児休業を取ったあと、元の人事評価の役職で職場に戻る場合、戻した企業に女性活躍補助金はどうか。

- (4) より一層の子ども第一主義を進めるためには、財政の裏付けが必要となる。財政状況はどうか。
- (5) 行田公園(仮称)にここ元気広場整備計画のテーマとコンセプトは、どのように整備計画に反映させたか。

4 粗大ごみの回収について

- ・ 1 mを超える粗大ゴミについては、ストックヤードへ持ち込みで間違いないか。

高橋 久光 議員（一般質問）

1 公共施設に関して伺う

- (1) 本市の各種施設（スポーツ、文化、教育、公園、その他インフラ整備等）は、バランス良く整備をされているか。
- (2) 東福寺野自然公園（青雲閣管理棟や体育館、グラウンド等）の今後整備計画はあるか。
- (3) 本市の公共施設は、年間どれだけの管理費がかかるか（最低、現状の経費は）現状と将来を見越した（5年後、10年後の）試算はされているか。

2 子ども達の安全・安心について

- (1) 通学路や公園、学校等に危険箇所がないか。見回りはどこまでされているか。
- (2) 子ども達が、野鳥（特にカラス）に襲われるケースが時々あるが対策は。

3 観光船キラリンについて

- ・ 改めて今日までの経緯と経過について伺う。併せて今後の見通しについて伺う。

中川 勲 議員（一般質問）

1 海洋深層水の利活用について

- (1) 今年度予算に調査費・研究費として535万円が計上され、東京大学農学生命科学研究科に委託されるとのことであったが進んでいるのか。
- (2) 滑川蒲鉾㈱の事務所・工場・敷地などを買収するとのことであるが、具体的にどう活用するのか。
ア 海洋深層水の利活用に関わる研究とあるが、専門家によるものか。
イ 工場全体をどう利用するか、しっかりと考えるべきであり、事務所も有効利用すべきである。

2 指定文化財・登録文化財について

- (1) 3月に国登録文化財として、滑川市で5カ所10件の歴史的建造物が登録されたが、市民へのPRは行ったのか。
- (2) 今後保存と活用をどのように行うのか。
- (3) 他の文化財とともに、市民に関心を持ってもらい、観光・文化・歴史において利活用すべきと思うが。
- (4) NPO法人が保存と活用の活動を展開されているが、どのように支援をされているのか。

3 働き方改革について

- (1) 職員の時間外労働の現状と対応はされているのか。
- (2) 教職員の残業時間の減少と対策は進んでいるのか。

4 観光について

- (1) ほたるいか海上観光と富山湾岸クルージング観光の今後の交渉はどうするのか。

- (2) 富山湾の夕日・夕焼けに染まった立山連峰は感激するほど素晴らしい。
1 カ所で両方を見れる場所を、市民に募集し展望所にすればどうか。

開田 晃江 議員（一般質問）

1 保険医療について

- (1) 3月議会の市長提案理由説明の中で、医療機関と連携を図りながら糖尿病対策の体制づくりを整備し、重症化予防に努めていくとあったが、新年度になり具体的にどのように進めているか。
- (2) 糖尿病性腎症、重症化予防プログラムは作成してあるか。これは、県内各市町村で取り組んでいると聞いているが滑川市の現状は。
- (3) 国がこのプログラムを作成することを推進し、通院中の未受診者に適用すれば、一定の評価がされ高い点数がもらえると聞いたが、取り組みにどのような問題があるのか。

2 地域交通網について

- (1) まちづくりとの連携や地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を目的とし、「滑川市地域公共交通網形成計画」を策定するとあるが、長期的計画を知らせてもらいたい。
- (2) まず最初は職員の熱い思いだと思うが、どのような所から、また、いつからスタートするのか。
- (3) 今回、民生環境委員会の視察研修の中では、公共交通の最終判断は市長であったり、または市長公約とのことだった。市長はどのような青写真を描いておられるのか。

3 急速冷凍機の活用について

- (1) どのような形で冷凍保存しているか。生何kg、ボイル何kg、誰がどのように作業しているのか。
- (2) 審議会の予算500万円の委託料は、機能しているのか。
- (3) 当初36万匹が、どのような理由で約20万匹になったか。

- (4) ホタルイカを通年、旬の状態を食べることで食の観光ができ、滑川市のどのお店でもホタルイカの料理が提供されている、この状態をつくり上げるには初年度から取り組むべきではないか。どのように考えているか。
- (5) 市内のレストランや料理旅館でホタルイカ料理の有料試食会を行ってはどうか。
- (6) 今後、冷凍保存されているホタルイカをどのように利活用し、ブランド化していくのか。将来的に全国に向けた販路の計画はあるのか。